**各会議等の主な内容**

福岡大会の主な内容をご紹介します。参加者を決める際のご参考になさってください。

今後、内容の変更等があった場合は、「福岡大会第○報」の形でメール送信します。

**大会テーマ**共に創る情報バリアフリー　共に支える未来社会

**【１０月１０日（木）】**

開会式、オリエンテーション、式典（１２：３０～１３：３０）

厚生労働省講演（１３：３０～１４：２０）

「障害者差別解消法～事業者による障害のある人への合理的配慮の提供義務化」（仮題）

分科会（１４：４０～１７：４０）

■第１分科会

担当　点訳委員会

対象　点訳担当職員等

テーマ「分かりやすく、読みやすい点字図書を届けるために～講演と事例から学ぶ～」

内容　第１部講演、第２部事例発表・ディスカッションの二部構成で行う。

第１部　講演：「触って分かりやすい触図・3D模型とは？～てんじつきさわるえほんを中心に～」

講師：大内進氏（手と目でみる教材ライブラリー・星美学園日伊総合研究所客員研究員）

　今春『てんじつき さわるえほん　たのしいらくご①まんじゅうこわい』（一般社団法人落語ユニバーサルデザイン化推進協会・著）が出版されました。

この本に3Dデータを加えて提供することを提案され、企画・制作に関わられた大内進先生をお迎えし、「触って分かりやすい触図」「点字図書と共に3D模型を提供する意義」などについてお話を伺い、今後の点字図書の可能性を皆さんと一緒に考えます。

第２部　事例発表・ディスカッション

　２施設から事例を発表いただき、それを受けて、点訳者養成講習・点字図書製作等についてディスカッションを行い、各施設での工夫・課題を共有します。

事例発表者：髙尾奈々美氏（長崎県視覚障害者情報センター）

　　　　　　青松紀野氏（横須賀市点字図書館）

■第２分科会

担当　電子書籍委員会

対象　音訳・録音・電子書籍担当職員等

※受講対象者：Producerを使用してテキストデイジーを製作したことがある人。

テーマ　「Plextalk Producerによるマルチメディアデイジー製作 基礎講習」

内容　読書バリアフリーに対応したアクセシブルな電子書籍、マルチメディアデイジ

ー図書製作の基礎講座を実習形式で行います。音声＋文字情報を含めた編集方

法・手順や、製作のポイントなどを学びます。

持ち物　Plextalk Producer ver.1.6.1.0（体験版も可）インストール済のパソコン、マウス、ヘッドホン（またはイヤホン）。（原則１人１台）

Plextalk Producer体験版インストールは以下URLより可能（90日間無料）

http://www.plextalk.com/jp/products/producer/download/install/

■第３分科会

担当　理事会

対象　全職員

テーマ　「読書バリアフリー　地域の取組み（福岡ほか）」（仮題）

内容　事例発表とパネルディスカッション。読書バリアフリー法を実践に移すべく、

多くの読書困難者へアクセスするため、公共図書館、教育機関、医療機関等と繋がる方策、仕組み作り、予算の取り方などなど、奮闘をかさねる現場での具体事例を発表。課題を浮き彫りにし、参加者・参加館の「これから」を共に考える場とします。

司会　成松一郎氏（読書工房）

登壇者　金山和佳氏（ライトハウスライブラリー）

　　　　夏秋圭助氏（福岡点字図書館）

　　　　門脇保身氏（鳥取県ライトハウス点字図書館）

　　　　山口祐子氏（鳥取県ライトハウス点字図書館）

**【１０月１１日（金）】**

全体会（９：１５～１２：１５）

担当　理事会、サービス委員会

テーマ　「世代を超えて利用され、その満足度を高める図書館でありたい！

～未来の利用者の発掘とともに～」

内容　テーマごとの二つのパネルディスカッションを行う。

〔パネルディスカッション１〕高齢利用者へのサービスを充実させよう！

　点字図書館が提供するサービスの利用の多くは、60歳代以上の人々で占められている。点字図書館はその中心的な利用者に適切な対応、求めに応じたサービス、次につながるサービスや応対ができているであろうか？

　本セッションはこの問いから始まる。そのうえで、これらの問いに答えるために今私たちに不足していること、求められること、取り組まねばならいことを共有し解決のための方法を探る。

　ついては、高齢者へのサービスを意識し、取り組みをしている点字図書館から実践報告と問題提起をいただき、ディスカッションを展開させたい。

　パネラー：

　①饗場野枝氏（京都ライトハウス情報ステーション）

　②藤本剛氏（川崎市視覚障害者情報文化センター）

　モデレーター：立花明彦（全視情協常任理事、日本点字図書館）

〔パネルディスカッション２〕未来の利用者を発掘し、育てる

　点字図書館の利用登録率は公共図書館に比べ10～20ポイント低い状況にある。その原因の一つは、点字図書館の場合、児童サービスを含め、若年層へのアプローチ、すなわち当該世代へのサービスが十分でなかったり、活発でなかったりすることにも起因する。学校現場は児童・生徒数の減少が顕著であるとは言え、在籍する彼らは、未来の点字図書館利用者の中心的世代となる存在である。このことを踏まえ、今からかれらを図書館利用者として組み入れ、サービスを展開していくことが点字図書館の永続化と発展につながる。そのために私たちはどう行動すべきか、どのようなサービスが求められているのか？

　盲学校図書室の活動の現状、点字図書館と盲学校等との協力・共働の実践を通してそのヒントを探りたい。

　パネラー

　①塚田明由実氏（熊本県立盲学校図書室）

　②小澤聡氏（宮城県視覚障害者情報センター）

　モデレーター：立花明彦（全視情協常任理事、日本点字図書館）

分科会（１３：００～１６：００）

■第４分科会

担当　録音委員会

対象　音訳・録音担当職員等

テーマ　「あなたならどうする？　こんな校正表

～丁寧なコミュニケーションで質の高い録音図書を！～」

内容　音声デイジー図書の製作工程において重要な“校正”について考えます。より良

い音声デイジー図書を作るために、校正者がどのような視点で校正を行い、音訳者は校正結果にどう向き合うか、そして職員の担うべき役割を考えます。丁寧なコミュニケーションを通じて質の高い録音図書を作成するために、職員の校正スキルとボランティアコーディネート力の向上を目指します。

１．校正とは

　校正の主なポイントから校正の重要性を確認します。

２．校正実践１

　校正課題を使い、校正のポイント、校正表の書き方を考えます。

３．校正実践２

　校正結果を音訳者、校正者にどのように伝えるかを考えます。

４．職員の校正スキルとボランティアコーディネート力の向上

職員の校正スキルとボランティアコーディネート力の向上を目指す具体的な方法を考えます。

■第５分科会

担当　点訳委員会、理事会

対象　全職員

テーマ　「点字プリンタの保守を究める！

～未来へ繋げる 情報保障を担保するための機器・技術～」（仮題）

「AIスピーカーデモ」

内容　第一部

　各施設・団体で使用頻度の高い点字プリンタについて、日々のメンテナンス、不調時の対応について情報交換を行います。

　点字プリンタを用いる情報提供の場面が施設内でなくなることはありません。読みやすくきれいな点字印刷を今後も維持するために、現状把握と課題解決への道筋を探ります。

第二部

AIスピーカーでサピエ図書館のデイジー図書を聴くことができる、アレクサスキルのデモンストレーションを行います。

宣言・決議、閉会（１６：１５～１６：４５）

分科会（１７：００～１８：３０）

■第６分科会

担当　録音委員会

対象　音訳・録音担当職員等

テーマ　「シネマ・デイジー製作基準と書誌入力規則について」

内容　昨年から今年度にかけて整備・改訂したシネマ・デイジー製作基準と書誌入力

規則について説明します。製作に関わる全ての施設・団体で一貫した高品質のシネマ・デイジーの提供を目指します。

読書バリアフリー特別展示

内容（予定）

・九州国立博物館：建築模型の展示・バリアフリー企画

「さわって体験！本物のひみつ」の紹介

・鶴見大学：３Ｄプリンターによる触察模型の展示

・福岡県手をつなぐ育成会：知的障がい者の読書の相談

・福岡県立図書館：読書体験会・読書補助機器の展示・読書相談

ほか